

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成 19 年 3 月 22 日 (2007.3.22)

【公開番号】特開 2005-99705 (P2005-99705A)

【公開日】平成 17 年 4 月 14 日 (2005.4.14)

【年通号数】公開・登録公報 2005-015

【出願番号】特願 2004-160400 (P2004-160400)

【国際特許分類】

G 0 2 F 1/1333 (2006.01)

G 0 2 B 5/02 (2006.01)

G 0 2 F 1/1335 (2006.01)

G 0 9 F 9/30 (2006.01)

G 0 9 F 9/35 (2006.01)

【F I】

G 0 2 F 1/1333 5 0 0

G 0 2 B 5/02 C

G 0 2 F 1/1335

G 0 9 F 9/30 3 1 0

G 0 9 F 9/35

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 2 月 5 日 (2007.2.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

一対の基板間に液晶を挟持し、複数の画素を備えた液晶表示パネルであって、前記一対の基板のうち、一方の基板は前記画素内に長軸と短軸の直交二軸を有する形状の凹部または凸部を備える樹脂膜と前記樹脂膜上に反射膜とを備える基板であり、前記凹部または凸部の中心点は六方細密格子の格子点に配置され、任意の前記格子点と隣接する 6 個の格子点とを各々結ぶ線を中心軸とし、該中心軸のうち少なくとも 1 つの中心軸が、前記凹部または凸部の長軸方向と略平行になるように、かつ前記凹部または凸部の長軸方向と前記中心軸のうち 1 つの中心軸は、3 時 9 時の方向と略平行になるように前記凹部または凸部を配置したことを特徴とする液晶表示パネル。

【請求項 2】

前記格子点をランダムに移動させたことを特徴とする請求項 1 に記載の液晶表示パネル。

【請求項 3】

前記凹部または凸部における各々の形状または大きさをランダムに変化させたことを特徴とする請求項 1 に記載の液晶表示パネル。

【請求項 4】

前記反射膜は前記凹部または凸部の一部に形成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の液晶表示パネル。

【請求項 5】

前記反射膜は帯状であることを特徴とする請求項 4 に記載の液晶表示パネル。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】発明の名称

【補正方法】変更

【補正の内容】

【発明の名称】液晶表示パネル

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0012

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

かつ、本発明の液晶表示パネルは、前記凹部または凸部の長軸方向と前記中心軸のうち1つの中心軸は、3時9時の方向と略平行になっていることを特徴とする。